

CF - 1200

ハンドヘルドFFTアナライザ「パッソ」

簡易取扱説明書

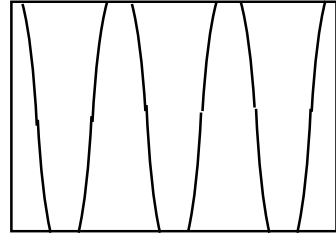
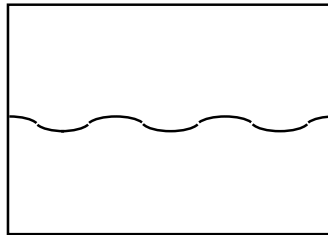
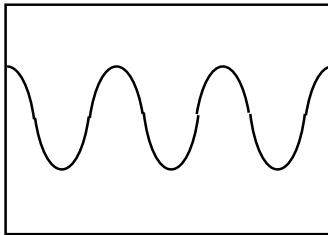
この取扱説明書は、ハンドヘルドFFTアナライザ「パッソ」の基本操作について説明したものです。御活用の程、宜しくお願ひ致します。詳細の説明は本編取扱説明書を御参照下さい。

目次	p.1
基本的な操作	p.2
表示画面の切換	
電圧レンジの設定	
周波数レンジの設定	
信号を停止させる	
平均化の実行	
表示機能	p.4
サーチカーソル機能（データの読み取り）	
記憶・再生	p.5
メモリーカードを差し込む	
メモリーカードのフォーマット	
ブロックメモリへの記憶	
ブロックメモリの再生	
プリンタでの記録	p.7
校正機能	p.8
加速度ピックアップとの校正	
騒音計・マイクロホンとの校正	

適切な電圧レンジ

× レンジが大きすぎる場合

× レンジオーバーの場合



△キーを押します。

▽キーを押します。

周波数レンジの設定

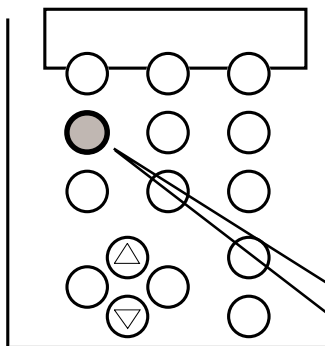
スペクトル表示にします。

周波数レンジキーを押します。

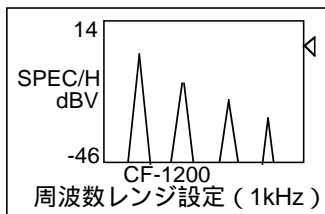
次に、△▽キーを押します。

△ 周波数レンジが大きくなります。

▽ 周波数レンジが小さくなります。



周波数レンジキー



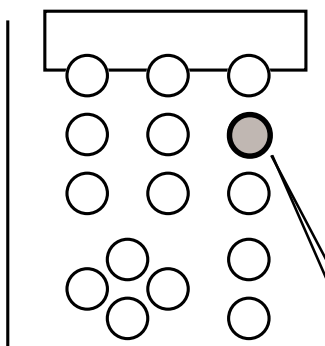
ここのかっこ内の数字に注目。

信号を停止させる。

スタート/ポーズキーを押します。又は、サイドキーを押します。再度押すと、スタートします。

サイドキーは、初期設定ではスタート/ポーズ機能になっています。サイドキーを平均スタート機能に設定することもできます。

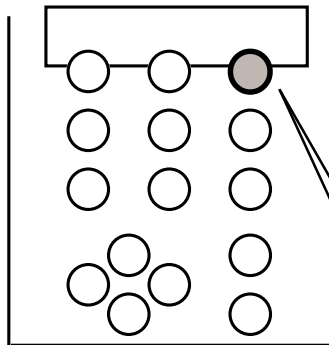
参照・本編取扱説明書 3.10 サイドキーの設定



サイドキー

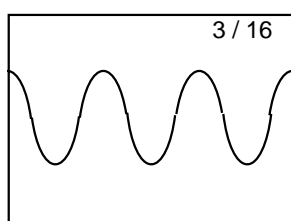
スタート/ポーズキー

平均化の実行



平均スタートキーを押します。
画面右上に平均実行回数 / 設定回数が表示され
ます。
平均化を終了するとポーズ状態になります。

平均スタートキー

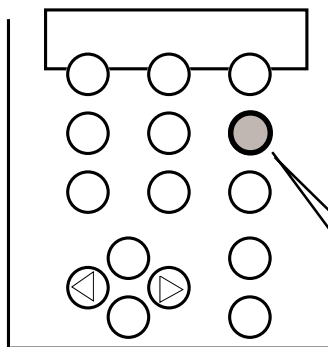


← 平均実行回数 / 設定回数

▶▶▶ ← 測定中のマーク。ポーズ状態は === 。

表示機能

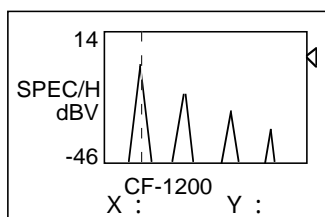
サーチカーソル機能 (データの読み取り)



信号を停止させておきます。

サイドキー

スタート / ポーズキー



任意のポイントのX軸・Y軸値を読み取ります。
◀▶キーでサーチカーソルを移動させ、任意の
点に合わせます。

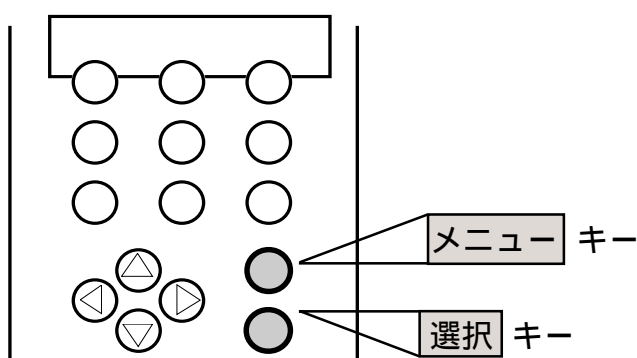
画面下に任意のポイントのX軸・Y軸値が表
示されます。

記憶・再生

メモリーカードを差し込む。

本体の電源を切ってから、メモリーカードを差し込みます。メモリーカードは裏返しにして差し込みます。

メモリーカードのフォーマット



【MAIN MENU】

- (1) 表示・解析条件設定
- (2) 平均化・速度変位
- (3) トリガ設定
- (4) メモリ設定**
- (5) 設定条件メモリ・その他
- (6) I/O 設定 (プリンタ)

新しいメモリーカードを使用する場合は以下のフォーマットを行って下さい。

メニューキーを押し、[4] メモリ設定に反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。

= メモリ設定 = 【NEXT】 【MENU】

メモリ選択 : 画面メモリ
メモリ番号 : ---
ラベル設定 : [LIST]
削除 : [LIST]
フォーマット : **<EXEC>**
フォーマットOK?

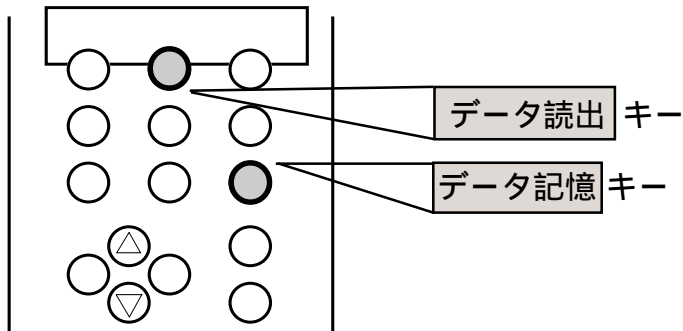
△▽キーでフォーマットに反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。

画面下に「フォーマット OK?」とでたら、再度選択キーを押します。「フォーマット中です」とでて、それが消えたらフォーマットは終了です。

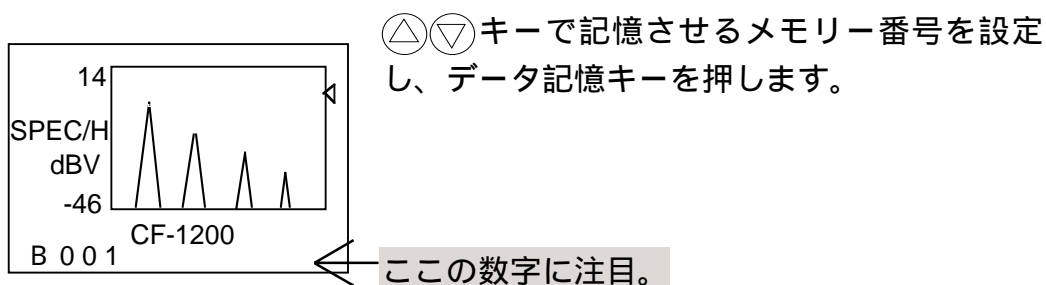
= メモリ設定 = 【NEXT】 【MENU】

メモリ選択 : 画面メモリ
メモリ番号 : ---
ラベル設定 : [LIST]
削除 : [LIST]
フォーマット : **<EXEC>**
フォーマット中です...

△▽◀▶キーで反転カーソルを [MENU] に合わせ、選択キー、メニューキーの順に押しします。



ブロックメモリへの記憶



△▽キーで記憶させるメモリー番号を設定し、データ記憶キーを押します。

B 0 0 1 記憶済

B 0 0 1 空のブロック

B 0 0 1 コンディションのみ記憶済

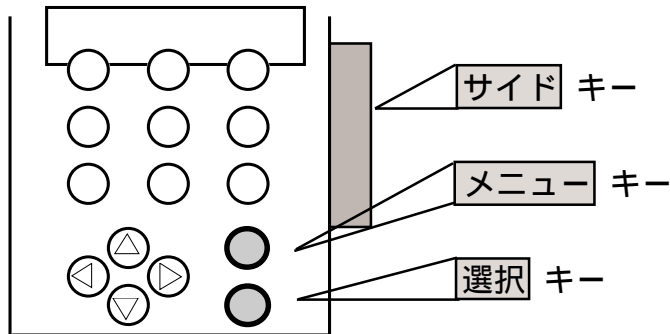
ブロックメモリの再生

△▽キーで再生させるメモリー番号を設定し、データ読出キーを押します。

「B 0 0 1」の「B」は、ブロックメモリ（画面メモリ）を表します。これが「R」の場合はレコードメモリ（波形メモリ）の設定になっています。その場合はメモリ種類をレコードメモリからブロックメモリへ変更して下さい。

参照・本編取扱説明書 3.7.1 ブロックメモリへの記憶

プリンターでの記録



【MAIN MENU】

- (1) 表示・解析条件設定
- (2) 平均化・速度変位
- (3) トリガ設定
- (4) メモリ設定
- (5) 設定条件メモリ・その他
- [6] I/O 設定 (プリンタ)**

= プリンタ設定 = 【NEXT】 【MENU】
RS-232C : ON
プリンタ : RQ110 又は THINK
サイドキー : プリント ON

メニューキーを押し、[6] I/O 設定 (プリンタ) に反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。

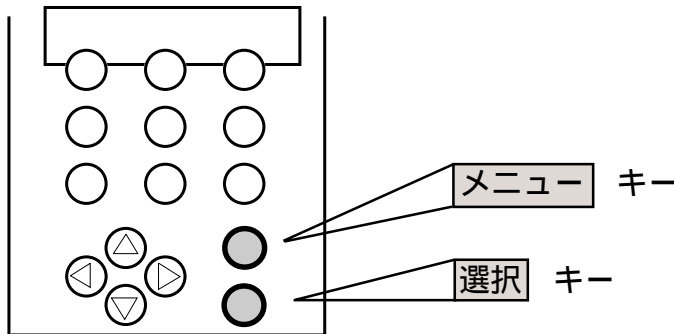
△▽キーで RS - 2 3 2 C に反転カーソルを合わせ、ON を選びます。△▽キーでプリンタに反転カーソルを合わせ、プリンタの種類を選びます。△▽キーでサイドキーに反転カーソルを合わせ、ON を選びます。

△▽◀▶キーで反転カーソルを [MENU] に合わせ、選択キー、メニューキーの順に押します。プリントアウトしたい画面を表示し、サイドキーを押すと、ハードコピーが実行されます。

注意！

プリンターを使わないときは、RS - 2 3 2 C を OFF に、サイドキーを OFF に戻して下さい。

校正機能



加速度ピックアップとの校正

=表示条件=		【NEXT】	【MENU】
X単位	:	Hz	
Y単位	:	(m/s ²)	
EU設定	:	V/EU	
EU値	:	9.800E-03V/EU	
Yスケール	:	LIN	
ピーク	:	OFF	
デルタ	:	OFF	
Yゲイン	:	*1	

メニューキーを押し、 \triangle ∇ キーで [1] 表示・解析条件設定に反転カーソルを合わせて選択キーを押します。

\triangle ∇ キーでY単位に反転カーソルを合わせ、 \triangleleft \triangleright キーで (m / s²) を選びます。
 \triangle ∇ キーでEU設定に反転カーソルを合わせ、V / E U を選びます。

加速度ピックアップに付属の試験成績書の電圧感度に合わせて感度を設定します。 \triangle ∇ キーでEU値に反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。1文字づつに反転カーソルが合うので、数値を設定します。 \triangle ∇ キーで数値を変え、 \triangleleft \triangleright キーで反転カーソルの位置を変えます。

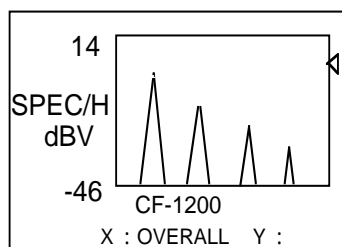
\rightarrow 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9] \triangle キーを押す。

9 . 8 0 mV / m/s²のときは、(9 . 8 0 0 E - 0 3) と設定します。
(E - 0 3 は 1 0⁻³ のことです。)

数値を全て設定したら、選択キーを押します。

\triangle ∇ \triangleleft \triangleright キーで反転カーソルを [M E N U] に合わせ、選択キー、メニューキーの順に押します。

騒音計・マイクロホンとの校正



= 表示条件 = 【NEXT】 【MENU】	
X単位	: Hz
Y単位	: spl
EU設定	: dB / サーチポイント
EU値	: 124dB / S.P
Yスケール	: LOG
ピーク	: OFF
デルタ	: OFF
Yゲイン	: 60 (dB)

騒音計からCAL信号を入力します。マイクロホンの場合は、音響校正器にマイクロホンを装着して校正信号を入力します。

表示切換キーを押してスペクトル表示にします。

▶キーを押し続けて、サーチカーソルをオーバーオール値に合わせます。

メニューキーを押し、△▽キーで[1]表示・解析条件設定に反転カーソルを合わせて選択キーを押します。

△▽キーでY単位に反転カーソルを合わせ、

◀▶キーで(m/s²)に反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。

1文字ずつに反転カーソルが合うので、単位を設定します。△▽キーで文字を変え、◀▶キーで反転カーソルの位置を変えます。

→ ABC ~ XYZ ~ abc ~ xyz ~ 012 ~ 789 ~ / ~ スペース ←

単位は、音圧レベル(sound pressure level)なので、s、p、l、スペースと設定し、選択キーを押します。

EU設定に反転カーソルを合わせ、dB / S . Pを選びます。

EU値に反転カーソルを合わせ、選択キーを押します。1文字ずつに反転カーソルが合うので、数値を設定します。△▽キーで数値を変え、◀▶キーで反転カーソルの位置を変えます。CAL信号が124dBのときは、(+124.0)と設定し、選択キーを押します。

Yスケールに反転カーソルを合わせ、LOGを選びます。

△▽◀▶キーで反転カーソルを[MENU]に合わせ、選択キー、メニューキーの順に押します。

騒音計・マイクロホンのCAL信号をOFFにすると、騒音計測が実施できません。